

中期目標の達成状況に関する評価結果

和歌山大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	

評価結果

《概要》	3
《本文》	5
《判定結果一覧表》	13

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

和歌山大学は、高野・熊野世界文化遺産など豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として「地域を支え、地域に支えられる大学」であるとともに、持続可能な社会の実現に寄与することを宣言する。

その実現のため、3つの基本目標を掲げる。

1. 和歌山大学は、現代の学生の、青年期に至る人間形成上の諸課題を深く認識し、教養教育、専門教育によって「生涯学習力」を培った市民・職業人として社会に参加し、その発展に寄与できる人間を育てる。
2. 和歌山大学は、紀伊半島を含む黒潮文化圏という歴史、自然、経済、文化を活かした研究活動によって創造された知見を活かし、地域から日本と世界の発展に寄与する。
3. 和歌山大学は、教員の多様な問題関心に基づく諸活動を尊重し、職員の主体的な職務遂行を支え、学生が高度な理論と実践力を修得するとともに「学生満足」が充足される大学生活を送ることができるよう支援を強化する。また、教員・職員・学生相互の信頼関係のもとでの協働と参画を通じて、「自主・自律・共生の気風にあふれる大学」であることを目指す。

1. 本学は、中期目標前文に掲げる3つの基本目標に基づき、月例の学長・理事・学部長懇談会、学長・理事・事務系幹部懇談会及び諸委員会において多様な案件を学習、協議し、教育研究評議会や経営協議会で審議を行ってきた。
2. 全学的課題については、大学全体で考え、取り組んでいくとの方針の下、全学教職員集会、全学教員集会を開催し、意見交換の機会を設けてきた。また、自らの組織を自ら研究し組織革新を図るため、学生・教職員及び地域住民等が参加するフォーラムやシンポジウムを積み重ねてきた。
3. 第2期中期目標・中期計画を実行するにあたっては、同目標・計画の焦点的課題を明示した「2011-13 2013-15 行動宣言」（別添資料Ⅰ）を作成し、この課題の実現を強く意識して、全構成員の参画と協働で取り組んできた。

【個性の伸長に向けた取組】

観光学部を有する国立大学である特色を活かし、更なる観光教育研究の世界水準への高度化・国際化を進めるべく、大学院観光学研究科（博士課程）を設置している。またグローバルに活躍できる優れた人材を輩出するため、「グローバル・プログラム」（卒業に必要な専門科目の全てを英語による講義で履修可能とする制度）の整備を進めるとともに、観光学分野で世界トップレベルの大学から外国人研究者を招聘し、研究ユニットの編成等を進めてきた。

また、観光学における世界的教育研究拠点の確立、アジア観光研究ハブの形成を目指し

て、世界水準の観光学教育研究機関「国際観光学研究センター」の設置を進めるとともに、我が国初となる国連世界観光機関による認定 (tedQual) 取得に向けた準備を進めてきた。

(関連する中期計画) **計画 1-1-1-2、計画 1-1-1-3**

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

「和歌山大学震災支援対策本部・緊急アクションプラン」を策定し、その中で入学検定料・入学料・授業料を免除するなど修学機会を確保するための経済支援を実施した。また学内で義援金を募り、全額を日本赤十字社に寄付した。さらに平成 23 年度から平成 26 年度にかけては、和歌山大学ボランティアバスを運行し、学生及び教職員を被災地に派遣し、ボランティア活動を行った。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、和歌山大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
（Ⅰ） 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	6	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			2	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		1	3	
（Ⅱ） 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好			2	
② 研究支援等に関する目標	おおむね良好			3	
（Ⅲ） その他の目標	おおむね良好				
① 地域社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			2	
② 国際化に関する目標	おおむね良好		1	2	

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 平成 26 年度に観光学研究科博士課程を設置したことにより、観光学の分野において学士課程から博士後期課程まで一貫した教育が可能になっている。観光学研究科博士課程では、観光経営、地域再生、観光文化という 3 つの研究分野を設けて、学生 1 名に対して 3 名以上の教員による学際的な研究指導を行う、チーム研究指導体制を編成している。
(中期計画 1-1-1-2)
- 特別主幹教授として招へいした外国人教員 3 名を含む観光学の研究ユニットを編成するとともに、卒業に必要な専門教育科目を英語で履修可能とするため、特別主幹教授を活用して、英語で実施される専門教育科目 48 単位以上の修得を必須とするグローバル・プログラムを設計し、平成 27 年度から先行実施するなど、国際的な観光人材の育成を目指した取組を進めている。(中期計画 1-1-1-3)
- 平成 25 年度にガジャマダ大学（インドネシア）と大学間連携協定を締結しており、短期派遣プログラム等によるインドネシアへの学生の派遣人数は平成 24 年度の 6 名から、平成 27 年度では 16 名となっている。また、フィリピン大学（フィリピン）とはジョイント・ディグリーの導入に向けて平成 25 年度から研究連携を実施し、共同フィールドワークや学会共同発表等を行うとともに、連携協定締結の手続きを進めている。
(中期計画 1-1-1-4)
- 平成 27 年度に国際観光学センター（仮称）設置準備室特別主幹教授として外国人教員 3 名を招へいし、特別主幹教授と他の大学教員による研究ユニットを編成し、併せてテニユア・トラック制度を活用して若手研究者 1 名を採用している。また、研究ユニットを支える準備室を運営するスタッフとして、プロジェクトコーディネーター 3 名、コーディネーター支援員 1 名及び事務職員 2 名を配置している。(中期計画 2-1-1-5)
- 専門科目のすべてが英語による講義で履修可能となるグローバル・プログラムの導入及び国連世界観光機関（UNWTO）の観光教育・訓練・研究機関認定（TedQual）の取得に向け、テキストとしての活用も想定した研究成果報告書を作成している。また、国際観光学センター（仮称）設置に向けて、平成 27 年度に観光教育研究セミナー及び国際シンポジウムを計 10 回開催している。(中期計画 3-2-3-2)

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 「和歌山大学震災支援対策本部・緊急アクションプラン」を策定し、その中で入学検定料・入学金・授業料を免除するなど修学機会を確保するための経済支援を実施した。また学内で義援金を募り、全額を日本赤十字社に寄付した。さらに平成 23 年度から平成 26 年度にかけては、和歌山大学ボランティアバスを運行し、学生及び教職員を被災地に派遣し、ボランティア活動を行った。

《本文》

（Ⅰ） 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であることから総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、1項目が「良好」、6項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された3計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○観光学分野における学部大学院一貫した教育の実施

中期目標（小項目）「〔教育課程〕 課題探求能力やコミュニケーション能力をはじめとする様々な能力を、学士、修士、博士のそれぞれに求められるレベルで確保する教育課程を編成する。」について、平成26年度に観光学研究科博士課程を設置したことにより、観光学の分野において学士課程から博士後期課程まで一貫した教育が可能になっている。観光学研究科博士課程では、観光経営、地域再生、観光文化という3つの研究分野を設けて、学生1名に対して3名以上の教員による学際的な研究指導を行う、チーム研究指導体制を編成している。

（中期計画 1-1-1-2）

○国際的な観光人材育成への取組

中期目標（小項目）「〔教育課程〕 課題探求能力やコミュニケーション能力をはじめとする様々な能力を、学士、修士、博士のそれぞれに求められるレベルで確保する教育課程を編成する。」について、特別主幹教授として招へいした外国人教員3名を含む観光学の研究ユニットを編成するとともに、卒業に必要な専

門教育科目を英語で履修可能とするため、特別主幹教授を活用して、英語で実施される専門教育科目 48 単位以上の修得を必須とするグローバル・プログラムを設計し、平成 27 年度から先行実施するなど、国際的な観光人材の育成を目指した取組を進めている。（中期計画 1-1-1-3）

○海外大学との取組の推進

中期目標（小項目）「〔教育課程〕 課題探求能力やコミュニケーション能力をはじめとする様々な能力を、学士、修士、博士のそれぞれに求められるレベルで確保する教育課程を編成する。」について、平成 25 年度にガジャマダ大学（インドネシア）と大学間連携協定を締結しており、短期派遣プログラム等によるインドネシアへの学生の派遣人数は平成 24 年度の 6 名から、平成 27 年度では 16 名となっている。また、フィリピン大学（フィリピン）とはジョイント・ディグリーの導入に向けて平成 25 年度から研究連携を実施し、共同フィールドワークや学会共同発表等を行うとともに、連携協定締結の手続きを進めている。

（中期計画 1-1-1-4）

○社会人向け大学院授業の開講

中期目標（小項目）「職業人育成のため、キャリア教育や社会人のリカレント教育に力を入れる。」について、岸和田サテライト及び南紀熊野サテライトにおける社会人向け大学院授業として経済学研究科の授業を開講し、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に延べ 342 名の科目等履修生を受け入れ、うち 19 名が経済学研究科に進学している。（中期計画 1-1-5-2）

（特色ある点）

○へき地・複式教育実習の実施

中期目標（小項目）「〔教育内容〕 学生が必要な能力を身につけられるよう、教育内容の充実を図る。」について、教育学部では、学校教育教員養成課程の 15 名程度を対象に「へき地・複式教育実習」を実施している。この実習では、地域の公立学校での実習ホームステイ等の交流を通して、より幅広い指導力を持つ教員の養成を図っている。（中期計画 1-1-3-1）

（２）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○教養教育の実施体制の強化

中期目標（小項目）「〔教育の実施体制〕 教養教育の実施体制を確立し、強化する。」について、平成 24 年度に「教養の森」センターを設置し、センター長を中心に週 1 回の頻度で教養担当者会議を開催し、「教養の森」授業科目の開設や授業評価等の審議を行うなど、運営体制の強化を図っている。

（中期計画 1-2-1-1）

○FD 活動の充実・強化

中期目標（小項目）「FD 活動に対する各教員の意識を向上させる。」について、学生アンケートの結果を踏まえ優れた教育実践を選定するグッドレクチャー賞を見直し、平成 27 年度に各学部及び「教養の森」センターが特色ある授業改善等の取組を行う個人又はユニットを選定するグッドプラクティス賞へ改め、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の充実・強化を図っている。

（中期計画 1-2-2-1）

（３）学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（４項目）のうち、１項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○障害学生支援の推進

中期目標（小項目）「〔学習・生活支援〕 学生が学習機会を絶たれることのないよう、環境を整備する。」について、平成 26 年度に専任教員・臨床心理士 1 名、専任職員 1 名を配置した、「障がい学生支援室」を設置し、組織的な支援体

制の構築に取り組んでいる。また、「障がい学生支援室」の執務室を大学本部に移転し、支援機器の配備、サポーターの作業スペースの確保等の環境改善にも取り組んでいる。（中期計画 1-3-1-1）

○メンタルサポート支援の推進

中期目標（小項目）「〔学習・生活支援〕 学生が学習機会を絶たれることのないよう、環境を整備する。」について、保健センターでは、メンタル面で不調の学生に対して、メンタルサポートシステムによる支援やキャンパス・デイケア室を活用した治療プログラムを行っている。キャンパス・デイケア室の利用者数は、平成 25 年度は延べ 2,438 名、平成 26 年度は延べ 2,210 名となっており、キャンパス・デイケアプログラムとして平成 24 年度から集団療法を開始し、この療法を受けた不登校・ひきこもり学生 14 名のほぼ全員が平成 27 年度末時点で再登校や社会復帰している。（中期計画 1-3-1-2）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であることから総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であることから総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した2項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学内特別競争研究費による研究拠点形成の推進

中期目標(小項目)「[研究水準] 大学の研究状況や地域の特性に相応した適正な研究領域の選択集中を行い、特徴ある先端的研究領域を育成する。」について、研究グループ活動を支援し、研究拠点の形成を推進するために平成22年度に学内特別競争研究費「独創的研究支援プロジェクト」を創設し、第2期中期目標期間に35件、約2億8,100万円を配分している。また、プロジェクトの一部は、科学研究費助成事業等の採択につながっている。(中期計画2-1-1-1)

○観光学研究における国際的研究拠点形成の推進

中期目標(小項目)「[研究水準] 大学の研究状況や地域の特性に相応した適正な研究領域の選択集中を行い、特徴ある先端的研究領域を育成する。」について、平成27年度に国際観光学センター(仮称)設置準備室特別主幹教授として外国人教員3名を招へいし、特別主幹教授と他の大学教員による研究ユニットを編成し、併せてテニユア・トラック制度を活用して若手研究者1名を採用している。また、研究ユニットを支える準備室を運営するスタッフとして、プロジェクトコーディネーター3名、コーディネーター支援員1名及び事務職員2名を配置している。(中期計画2-1-1-5)

(2) 研究支援等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究支援等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であることから総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(特色ある点)

○重点研究等への財政支援の推進

中期目標(小項目)「[研究支援] 重点的な課題を定め、学部の枠を越え全学的に取り組む仕組みをさらに強化する。」について、観光学関連の研究を推進するため、重点的な予算配分を行うとともに、学部横断型のプロジェクト研究には平成22年度から学内特別競争研究費「独創的研究支援プロジェクト」による支援を行っている。(中期計画2-2-1-1)

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であることから総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「地域社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であることから総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○サテライトを活用した地域連携事業の推進

中期目標(小項目)「社会貢献をさらに進めるため、効果的な運営を行う。」について、岸和田サテライトでは、平成24年度に岸和田市地域連携アクションプランの整理・見直しを行うとともに、南紀熊野サテライトでは、紀南地域で課題解決・地域価値創造に資する教育・研究・実践を行うことを目的とした南紀熊野サテライトみらい戦略二期計画(平成25年度から平成26年度)を策定し、事業を展開している。(中期計画3-1-2-1)

(2) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した2項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○ASEANに重点を置いた国際交流の推進

中期目標(小項目)「留学生の確保に努める。」について、東南アジア諸国連合(ASEAN)に重点を置いた国際交流を推進するため、カセサート大学(タイ)企画の3大学合同教育プログラム、浙江師範大学(中国)主催の日中韓大学生国際フォーラム等のプログラムを実施し、平成26年度の留学生受入者の206名のうち、ASEANからの留学生は15名となっている。また、海外研修プログラム等の派遣人数は、平成22年度の33名から増加傾向にあり、平成27年度は70名となっている。(中期計画3-2-1-1)

○グローバル・プログラムの導入

中期目標(小項目)「地域の国際化の中心として活動する。」について、専門科目のすべてが英語による講義で履修可能となるグローバル・プログラムの導入及び国連世界観光機関(UNWTO)の観光教育・訓練・研究機関認定(TedQual)の取得に向け、テキストとしての活用も想定した研究成果報告書を作成している。また、国際観光学センター(仮称)設置に向けて、平成27年度に観光教育研究セミナー及び国際シンポジウムを計10回開催している。(中期計画3-2-3-2)

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
(Ⅰ) 教育に関する目標			おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標			おおむね良好	
[教育課程] 課題探求能力やコミュニケーション能力をはじめとする様々な能力を、学士、修士、博士のそれぞれに求められるレベルで確保する教育課程を編成する。			良好	
○	1-1-1-1	[教育課程] 学部、研究科ごとにコア・カリキュラムを設定するなど、それぞれが担う人材養成に応じた教育課程を編成し実施する。	おおむね良好	
	1-1-1-2	観光学部を有する国立大学である特色を活かし、更なる観光教育の高度化・国際化を進めるべく、観光学の大学院博士課程を新設し、グローバルに活躍できる優れた人材を輩出するための教育課程を編成し実施する。また観光学教育・研究の世界的水準に応えるべく、国連世界観光機関による認定（tedQual）取得に向け、観光学を中心としたグローバル教育・カリキュラムの開発等に取り組む。	良好	優れた点
	1-1-1-3	観光学で世界をリードするトップレベルの大学（サリー大学等）と連携した教育研究に取り組むとともに、外国人教員を招聘し、卒業に必要な単位を英語で履修可能とするための履修制度の設計を行う。	良好	優れた点
	1-1-1-4	アジア圏の大学と連携したジョイント・ディグリー導入に向けて、ガジャマダ大学、フィリピン大学等との交渉・調整を行う。	良好	優れた点
学士課程においては、大学教育への順応を促すため、初年次導入教育に力を入れる。			おおむね良好	
	1-1-2-1	少人数による初年次教育（導入教育）の履修モデル厳格化や双方向性を重視した授業内容の充実により、学習への動機付けや学習習慣の形成をはかる。また、学生による学習支援組織を設置し、学習意欲向上に向けた支援体制を確立する。	おおむね良好	
[教育内容] 学生が必要な能力を身につけられるよう、教育内容の充実を図る。			おおむね良好	
	1-1-3-1	専攻する学問分野の知識のみでなく、コミュニケーション能力、問題解決能力、情報リテラシーなど、社会人としての基礎力を育成するための体系的な履修モデルを構築する。	おおむね良好	特色ある点
	1-1-3-2	学位授与、教育課程、単位制度などの方針を明確化するとともに、学生に提供する情報の公開及び教育サポートシステムなどを利用し、学生への周知方法を充実する。	おおむね良好	
	1-1-3-3	大学間の協働による授業の提供をより充実させる。	おおむね良好	

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	自主性・創造性を育む教育を推進する。		おおむね良好	
1-1-4-1	自主的・創造的活動を学士教育課程において重視し、倫理観、自己管理力、協調性、プロジェクトマネジメント力の育成を意図した教育を実施する。		おおむね良好	
	職業人育成のため、キャリア教育や社会人のリカレント教育に力を入れる。		おおむね良好	
1-1-5-1	卒業・修了時に社会人としての基礎力を獲得できるように、系統的なキャリア教育を初年次から導入する。高学年次においてはインターンシップを充実させるとともに、企業・自治体等地域との連携によるキャリア教育体制を構築する。		おおむね良好	
1-1-5-2	社会人に対する履修証明プログラム及び高度なスキルを持った人材育成のための特別講座の開設、大学院授業の聴講制度など、社会人リカレント教育を充実する。		良好	優れた点
	〔成績評価〕 教育の質保証の観点から、公正かつ客観的な成績評価を行う。		おおむね良好	
1-1-6-1	〔成績評価〕 学習時間などの実態把握、教育方法の点検・見直しを行い、より客観的な成績評価基準を策定し適用する。		おおむね良好	
	〔入学者選抜〕 アドミッション・ポリシーの検証・見直しなど、本学の人材養成目標に照らし適切な人材の確保に努める。		おおむね良好	
1-1-7-1	〔入学者選抜〕 学生の年間単位取得状況などを調べ、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を適切に受け入れていたのかを確認することによって、入試機能の有効性を検証し、その結果を踏まえ入試方法に反映する。		おおむね良好	
② 教育の実施体制等に関する目標			おおむね良好	
	〔教育の実施体制〕 教養教育の実施体制を確立し、強化する。		おおむね良好	
1-2-1-1	〔教育の実施体制〕 教養教育において、組織的な取組を可能とする企画・運営体制を確立し、強化する。		おおむね良好	特色ある点
	〔教育の質の改善〕 FD活動に対する各教員の意識を向上させる。		おおむね良好	
1-2-2-1	〔教育の質の改善〕 授業参観制度、グッドレクチャー賞、FDフォーラムなどを強化し、全学、各学部及び各研究科におけるFD活動をより充実させる。		おおむね良好	特色ある点
1-2-2-2	学生の授業評価などに基づく、各教員の授業改善を支援する体制を確立するとともに、問題解決教育のPDCAサイクルにつなげる。		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
③ 学生への支援に関する目標			おおむね良好	
[学習・生活支援] 学生が学習機会を絶たれることのないよう、環境を整備する。			良好	
1-3-1-1	[学習・生活支援] サポートマニュアルを作成するなど、身体に障害を持った学生の学習・生活面での支援を強化する。		良好	優れた点
1-3-1-2	メンタルな問題で修学困難となった学生や、単位修得状況に問題のある学生、留年生などに対するキャンパス・デイケアを強化する。		良好	優れた点
学生生活に対する支援を充実強化する。			おおむね良好	
1-3-2-1	学生生活に関わるトラブルの防止を図る、学生の課外活動への参加率を高めるなどの支援を推進するとともに、社会人としてのマナー教育を行う。		おおむね良好	
[就職支援] 学生の就職に対する組織的な支援を強化する。			おおむね良好	
1-3-3-1	[就職支援] 全学的就職支援体制の下で、キャリア形成支援、就職対策の立案及び学生相談体制を維持・強化する。		おおむね良好	
[ハラスメント対応] ハラスメントの防止に努めるとともに、発生時の相談体制などを強化する。			おおむね良好	
1-3-4-1	[ハラスメント対応] 教職員に対する啓発研修会や学生に対する啓発講演会の開催などハラスメント防止の取組を引き続き実施するとともに、ハラスメントが起こった場合に備え、相談窓口の周知、相談員研修などをさらに強化する。		おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			おおむね良好	
[研究水準] 大学の研究状況や地域の特性に相応した適正な研究領域の選択集中を行い、特徴ある先端的研究領域を育成する。			おおむね良好	
○	2-1-1-1	[研究水準] 卓越した研究グループ活動を支援し、研究拠点の形成を推進する。	良好	優れた点
	2-1-1-2	国内外の研究組織との研究連携を進め、研究活動の活性化と水平展開を図る。	おおむね良好	
	2-1-1-3	優れた若手研究者育成のため、基礎的な研究を含め支援を強化する。	おおむね良好	
	2-1-1-4	研究環境を整えるため、費用、設備、人的支援などの面でセーフティーネットを構築する。	おおむね良好	
	2-1-1-5	国際観光学センター（仮称）の整備に向け、観光学で世界をリードするトップレベルの大学（サリー大学等）と連携した教育研究に取り組むとともに、外国人教員を招聘し、観光学研究における国際的な研究拠点の形成を進める。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	[研究成果の社会還元] 産官学の研究交流の場や学生・教員の学外での研究発表を拡充する。		おおむね良好	
2-1-2-1	[研究成果の社会還元] 産官学の研究交流の場を通して地域に根ざした研究シーズを発掘し、実効ある共同研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-2-2	地域の研究者も参画し、学生・教員の学外での研究発表を促進する。		おおむね良好	
② 研究支援等に関する目標			おおむね良好	
	[研究支援] 重点的な課題を定め、学部を越え全学的に取り組む仕組みをさらに強化する。		おおむね良好	
2-2-1-1	[研究支援] 観光学など特色ある研究や学部横断型のプロジェクト研究、グループ研究を重点的に推進するため、財政面などで支援を行う。		おおむね良好	特色ある点
2-2-1-2	若手による研究、女性による研究に対する支援を推進する。		おおむね良好	
	[研究の質の向上] 研究活動に対する評価を実施し、研究の質の向上を図る。		おおむね良好	
2-2-2-1	[研究の質の向上] 研究計画や成果報告を含め、積極的に自己評価・外部評価を行い、高い評価を得た教員にインセンティブを与えるなど、研究の質の向上を図るための取組を推進する。		おおむね良好	
	[研究倫理] 研究倫理の確立とその保持を図るための体制を整備する。		おおむね良好	
2-2-3-1	[研究倫理] 学術研究の健全な環境の確保、信頼性と公正性を担保するため、倫理指針の徹底を図る。		おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標			おおむね良好	
① 地域社会との連携や社会貢献に関する目標			おおむね良好	
	地域社会のニーズにあった教育・研究を推進する。		おおむね良好	
3-1-1-1	地域の活性化に寄与するため、大学を支援するステークホルダーとの協働を推進し、高大連携など地域社会のニーズにあった教育・研究を拡充する。		おおむね良好	
	社会貢献をさらに進めるため、効果的な運営を行う。		おおむね良好	
3-1-2-1	時代ニーズに即応し、サテライトを含むセンターについて、ミッションを活かしつつ発展的運用を図り、各種連携協定についても見直しを進める。		おおむね良好	特色ある点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
② 国際化に関する目標			おおむね良好	
	留学生の確保に努める。		良好	
	3-2-1-1	留学生受け入れ人数の多い国などの重点国を選び、重点的に国際交流を推進するとともに、締結している国際交流協定の機能状況などを点検し、その見直しを行う。	良好	優れた点
	留学生への支援を強化する。		おおむね良好	
	3-2-2-1	ビジネス日本語及び日本や和歌山地域の生活・文化などを体験学習できる授業を地域のボランティアなどの協力を得て推進し、留学生に対する「日本語・日本事情」教育を充実させる。	おおむね良好	
	地域の国際化の中心として活動する。		おおむね良好	
	○ 3-2-3-2	国際観光学センター（仮称）の整備に向け、英語研究論文集の出版、国際学会等の開催を通じ、本学全体の人文社会科学系の研究成果を国際的に発信する。また第3期中期目標期間において、国連世界観光機関の観光教育・訓練・研究機関認定（tedQual）の取得に向け、観光学を中心としたグローバル教育・カリキュラムの開発等に取り組む。	良好	優れた点

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	第2期中期目標期間において、観光学分野で世界トップクラスの大学との連携実績を生かした「国際観光学センター（仮称）」を設置し、外国人研究者を招へいするとともに、国連世界観光機関の観光教育・訓練・研究機関認定（tedQual）の取得等を通じ、アジアにおける観光研究ハブを形成する計画を進めている。平成26年度に観光学研究科博士課程を設置したことにより、観光学の分野において学士課程から博士後期課程まで一貫した教育が可能になっており、平成27年度には特別主幹教授として外国人教員3名を招へいし、特別主幹教授と他の学内教員による研究ユニットを編成している。また、専門科目のすべてが英語による講義で履修可能となるグローバル・プログラムの先行実施、テキストとしての活用も想定した研究成果報告書の作成等にも取り組んでいる。
-----	---